

2019年度スポーツ庁委託事業「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」
栃木県地域ワークショップ 報告書

日時	2020（令和2）年2月17日（月）13：30－16：30
会場	栃木県総合教育センター学習室 AB
参加者	42名 （栃木県教育委員会事務局4名、市町教育委員会3名、教育事務所4名、推進校30名、日本体育大学1名）
プログラム	<p>13：30 開会挨拶 栃木県教育委員会事務局義務教育課 課長補佐 安藤育夫</p> <p>13：35 推進地区および推進校による実践発表 ・益子町 益子町教育委員会事務局学校教育課 学校教育係長 田崎香苗 ・佐野市 佐野市教育委員会事務局学校教育課 指導主事 土田邦博 ・県立高根沢高等学校 県立高根沢高等学校 教諭 伊東将大</p> <p>14：05 中核拠点におけるオリンピック・パラリンピック教育について 日本体育大学 特別研究員 秋和真澄</p> <p>14：20 休憩</p> <p>14：30 報告会およびグループ協議</p> <p>16：20 事務連絡</p> <p>16：30 閉会</p>
内容	<p>栃木県は市町に再委託しているため、小・中学校の実践は市町教育委員会より報告がなされた。益子町は町内の全小学校を推進校に指定しており、全小学校において、オリンピック・パラリンピックのシンボルマークの意匠や種目等を調べ、学習した事を生かして白無地うちわにオリジナルのデザインを描く取り組みを行った。事前学習の際にうちわの表面、事後学習後にうちわの裏面を描き、意識の変容を見られるようにした学校もあり、事前学習から事後学習後にかけてイラストや応援メッセージの内容が具体化したと報告があった。佐野市では、オリンピック・パラリンピックに係る研究授業として「I'mPOSSIBLE」を活用した校内研究および授業が全推進校で行われた。県立高根沢高等学校では、全学年各HRにて福祉・人権教育と関連させて授業を実施し、年度末には年間を通した継続的な取り組みを地域に向けて発信した。</p> <p>続いて、本学より、他地域の実践事例、アンケート結果、東京2020大会に係る授業参考資料・聖火リレーに関して説明を行った。</p> <p>グループ協議では、今年度の取組について成果と課題を中心に発表し、情報共有を図りながら今年度の取組を振り返った。また、成果と課題を踏まえ、来年度、学校全体としてオリンピック・パラリンピック教育を効果的に進めていくためにはどのようにしたらよいか協議した。</p>



会場の様子



グループ発表の様子